

# 特別企画 学生が分別で「39gの減量」に挑戦！



学生のお二人に「市民1人1日当たり39グラムの減量」に挑戦してもらいました。



ごみ減量推進課 佐藤寛恵主事  
鮎澤恵さん 尚綱学院大学2年生。学内の環境サークルに所属  
兎沢剛さん 宮城教育大学2年生。1人暮らしで分別は少し不安

## いざ分別、3日分約120グラムの減量に挑戦！

**佐藤** こちらに免沢さんの家から出る3日分の家庭ごみを再現しました。まずは全体の重さを量ってみましょう。1人1日当たり450グラム以下が目標なので、3日分は



**免沢** 納豆をよく食べるんですけど、このパックもプラスチック容器です。プラスチック容器は、食品トレイもプラスチック容器ですね。  
**佐藤** プラスチック容器ですか。  
**免沢** 市では資源物としてプラスチック容器を集めています。このマーク（下図）が目印です。  
**佐藤** プラスチック容器は、プラスチック製の容器包装の資源物（以下・プラスチック）です。食品トレイもプラスチック容器ですね。  
**免沢** これも資源



**免沢** 雑がみは新聞紙、段ボール、雑誌、紙パックに区分できない再生可能な紙のことです。雑がみは大きさや形が異なるので、紙袋に

**免沢** 雑がみ？  
**佐藤** 雑がみは新聞紙、段ボール、雑誌、紙パックに区分できない再生可能な紙のことです。雑がみは大きさや形が異なるので、紙袋に



入れるか大きめの紙に包んでください。紙類は種類別に、ひもで文字に縛ってくださいね。  
**免沢** 最後は生ごみです。水気を切って捨てるのがポイントです。  
**佐藤** 生ごみは、水気を切るだけで10〜30グラム減らせます。目標達成にグッと近づきますね。  
**免沢** それでは、分別した資源物の重さを量ってみましょう。  
**免沢** (計量して)全部で186グラム。目標の3日分以上ですね！  
**佐藤** 今は家庭ごみ指定袋の中サイズを使っているようですが、これなら特小サイズで十分ですね。今まで使っていた中サイズは、10枚セットで270円。家庭ごみ指定袋(緑色)の特小とプラスチック指定袋(赤色)の小を買っても合計170円で済みます。  
**免沢** 100円も安い！分別するとお得になるんですね。  
**免沢** 学生にとって100円は大きいです。

## 186gのごみ減量に成功！

資源化できたもの		重さ
プラスチック製容器包装	カップラーメンの空き容器・内袋	12g
	パスタの具などの包装2袋	10g
	食品トレー・ラップ	7g
	冷凍食品の外袋・小分けトレー	10g
紙類(雑がみ)	納豆のパック	2g
	チラシ(11枚)	109g
	レトルト食品やお菓子の紙箱2個	30g
	トイレットペーパーの芯	6g

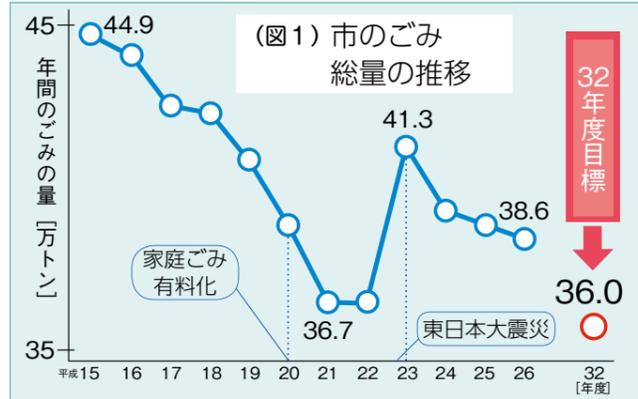


が目標達成の近道だと思いました。これからはきちんと分別します！  
**佐藤** 家庭ごみに混入している資源物の中で一番割合が高いのが紙類です。減量の鍵を握っていますね。  
**免沢** 分別は環境にはもちろん、お財布にも優しいんですね。県外から来た学生にも、積極的に呼び掛けていこうと思います。

## 新たな目標を設定！



震災の後、増加している仙台のごみ  
市のごみ排出量は、平成15年度から順調に減り続け、家庭ごみ有料化が開始された平成20年度には大幅に減少しました(図1)。市民の皆さんの分別意識も高まる中、平成23年に東日本大震災が発生し、ごみ排出量は急激に増加。現在は減少傾向にあるものの、震災前よりも多い状態が続いています。  
**キッチンと分けて、ごみを減らそう**  
こうした状況を受け、市では3月に「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」(平成23年度〜平成32年度)を見直し、新たな目標を設定しました(図2)。平成32年度までに「ごみ総量36万トン以下」「リサイクル率35%以上」などの数値目標を定めたほか、「市民1人1日当たりの家庭ごみ450グラム以下」という新たな指標を設けました。  
これらの目標の達成に向けて、一人一人が毎日出している「ごみ」について振り返り、紙類、プラスチック製容器包装、缶・びん・ペットボトル等の資源物の分別やエコグッズの活用など、ごみ減量・リサイクルを進めましょう。



(図2) 「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」新たな目標

- ごみ総量(※1): 36万トン以下  
→ (平成26年度比) 2万6千トン削減
- 燃やすごみの量(※2): 30万5千トン以下  
→ (平成26年度比) 2万8千トン削減
- リサイクル率(※3): 35%以上  
(平成26年度実績=30%) → 5ポイント増加

**ごみを出さないエコグッズ**

マイバッグやマイ箸などのエコグッズを活用すると、「ごみの発生」そのものを減らすことができ、目標達成に近づきます。

- レジ袋1枚 → マイバッグ -10g
- 割り箸1膳 → マイ箸 -5g
- 500mlペットボトル容器 → タンブラー(水筒) -25g

**NEW** 生活に身近な「家庭ごみ」の量を新たな指標に加えました

■市民1人1日当たりの家庭ごみ: 450g以下 (平成26年度実績=489g)  
⇒ 1人1日当たり39gの減量が必要

※1: 生活ごみと事業ごみの合計(資源物を含む)  
※2: ごみ総量のうち、焼却処理するごみの合計  
※3: 本市のごみ・資源物のうち、リサイクルされる割合

この特集に関するお問い合わせはごみ減量推進課 ☎214・8230、FAX214・8840